

馬の文化史 — 世界の切手と馬のはなし

内藤 陽介 著

本体 2,500 円+税 / A5 判 並製 / ISBN978-4-86722-146-4 C0030 / 2月上旬刊

午年 (令和 8 年・2026 年) 記念出版!



郵便学者による「干支の文化史」シリーズ第3作

世界最初の馬切手を起点に、郵便、国家、神話、美術、戦争へと視野を広げ、馬が人間社会の〈制度〉や〈象徴〉として機能してきた歴史を描く文化史。ヨーロッパからアメリカ、日本、中国、満蒙までを横断し、切手や図像を手がかりに人類史の構造を読み解く、内藤郵便学の真骨頂!

【著者紹介】内藤 陽介 (ないとう ようすけ)

1967年東京都生まれ。東京大学文学部卒業。郵便学者。日本文芸家協会会員。英王立ロンドン郵趣協会フェロー(FRPSL)。切手等の郵便資料から国家や地域のあり方を読み解く「郵便学」を提唱し、研究著作活動が続いている。主な著書に『北朝鮮事典』『中東の誕生』(いずれも、竹内書店新社)、『外国切手に描かれた日本』(光文社新書)、『切手と戦争』(新潮新書)、『反米の世界史』(講談社現代新書)、『事情のある国の切手ほど面白い』(メディアファクトリー新書)、『マリ近現代史』(彩流社)、『日本人に忘れられたガダルカナル島の近現代史』(扶桑社)、『みんな大好き陰謀論』『誰もが知りたいQアノンの正体 みんな大好き陰謀論II』『本当は恐ろしい!こわい切手 心霊から血塗られた歴史まで』(いずれも、ビジネス社)、『世界はいつでも不安定—国際ニュースの正しい読み方』『今日も世界は迷走中—国際問題のまともな読み方』(いずれも、ワニブックス)、『切手でたどる郵便創業150年の歴史(全3巻)』『現代日中関係史(全2巻)』『切手もの知り図鑑 一番切手50のエピソード』(いずれも日本郵趣出版)、『朝鮮戦争』『リオデジャネイロ歴史紀行』『パレスチナ現代史』『チェ・ゲバラとキューバ革命』『改訂増補版 アウシュヴィッツの手紙』『日韓基本条約—シリーズ韓国現代史1953-1965』『アフガニスタン現代史』『龍とドラゴンの文化史』『蛇の文化史』(いずれも、えにし書房) などがある。文化放送「おはよう寺ちゃん 活動中」、インターネット番組「ニッポンジャーナル」コメンテーターのほか、インターネット放送「チャンネルくらら」のレギュラー番組「内藤陽介の世界を読む」などを配信。また、2022年より、オンライン・サロン「内藤総研」を開発、原則毎日配信のメルマガ、動画配信など、精力的に活動中。

〈目次〉

はじめに

第1章 ブラウンシュヴァイクの馬

第2章 七つの海のシーホース

第3章 郵便馬車

第4章 ポニー・エクスプレス

第5章 神功皇后は馬に乗ったのか

第6章 徐悲鴻と奔馬

第7章 満蒙の“蒙”と馬

あとがき

直取引代行 トランスビュー

えにし書房の商品は、トランスビューの取扱で納品します。直取引の条件はトランスビューの商品とすべて同じ(返品随時可)です。取次ルートの場合は八木書店経由(返品可)です。トランスビューとお取引がない書店様は小社にご連絡ください。ご注文は1冊からお気軽に!

貴店名

ご担当

『馬の文化史』

冊